

観光漁業への取り組みについて

宮古支庁農林水産振興課

南 洋 一

1. 目的

宮古地区の振興を図るため、未開発の技術並びに経営手法の導入にあたって、将来の水産業を担う若い漁業者が地域の課題、内容を理解する目的で伊平屋村の海の学校校長の今井氏を講師に招き、交流学習会を開いた。

2. 交流年月日

平成11年2月5日（金）

3. 交流場所

平良市漁協2階会議室

4. 参加者

宮古地区の漁協青壮年部、婦人部
宮古地区の漁協役職員
宮古地区の市町村の水産担当職員
宮古地区の観光協会の会員等
宮古支庁職員

5. 協力者

今井輝光（伊平屋島「海の学校」校長・
（株）ライフスタイル研究所プロデューサー）

6. 交流内容

講義の内容を要約すると以下のとおりである。

1) 「人」「モノ」「金」

何か事業を始める場合には「人」「モノ」「金」が問題になってくる。順序は「金」「モノ」「人」ではいけない。「人」が一番先にくる。なぜ「人」が先なのかというと、基本的にまず人がいないとモノは成り立たない

からである。経済だけではなく、教育もそうだ。自然だけあっても、人がいないと起業できない。

2) ハードが無くてモノはできる

ハードが無くてモノはできる。これはすごく重要なことだ。一般的には事業を立ち上げる場合、インフラ整備から始まって当然やらなくてはいけないことが山ほどある。海の学校の場合はソフトが先行して進んできた。この4年間というのはアツという間に過ぎてしまった。

3) キャラクターを探せ

みなさんがもし自分の所でも「海の学校」のようなものを立ち上げたいと考えるなら他の島とどういったところが異なりどのような特徴があるのか、どういう人が自分のところには住んでいるのか、住んでいる人のキャラクターはどうかそういったことが非常に大事になってくる。

4) エネルギーの交換

都会に住んでいる人間には、沖縄の島に住んでいる人がうらやましくてしょうがないという思いがある。一方で、いなかに住んでいる人が都会に住んでいる人をうらやましく思っている部分もあるだろう。だからそこでエネルギーの交換があるわけだ。

世界経済の約三分の一は旅行関連で成り立っている。

5) 人格を認める

お互いの人格を傷つけることだけは絶対に避けなくてはならない。人格を傷つけるとビジネスであろうと何であろうとなにもかもす

すべてが壊れる。人格を傷つけるとは、相手を人間として否定することだ。

7. 交流所感

宮古地域で海の学校の分校を作る希望があるのならば検討委員会を作り、受け身ではなく積極的に宮古地域をアピールする必要があると今井氏から指摘があった。今井氏の「人」「モノ」「金」の考え方は普通の人と逆の考え方である。普通の人々の固定観念を打ち破るのは難しい。

